

昨年の4月号でお知らせした「ふるさとの祭りと年中行事」の調査・出版の計画は、民族行事調査員と町文化財審議会を中心に、次のように進められています。

### 1 調査・記録の必要性

はるか昔から今日まで守り伝えられた「祭り」や「年中行事」は、地域の私たちの生活と密着したふるさとの民族的文化でした。しかし、急速に発展する現代社会では、いろいろな事情によって略されたり、省かれたり、また、本来の意味を失いつつある行事も少なくありません。

このような状況の中で、かつて、行事の中心となつて民族的文化を支えてきた人たちも、世代を交代しつつあります。町文化財審議会では、現在、その調査・研究・記録を進めなければ、「地域の祭り

や年中行事のもつ本来の意味を知る機会を永遠に失ってしまうのではないかと話し合いました。

### 2 「基本調査」から「記録調査」へ

昨年の4月から10月にかけて、横芝・大総・上堺の各地区ごとに、祭り・年中行事に関する「横芝町民族行事基本調査」を実施しました。町民皆様のご協力によって、約300件の事例を集めることが

平成2年の1年間を、「記録調査」の調査期間として、

# 地域文化を記録

## 横芝風土記平成3年7月発刊予定

横芝町教育委員会

でき、調査員一同、地域文化の奥深さに感動しております。その後、月別・地域別・分野別に整理・検討した結果、その重要性や独自性、地区ごとのバランスを考えて、「記録調査」すべき事例20件が選定されました。

### 3 民族風土記の刊行

この記録調査の結果は、「横芝風土記…ふるさとの祭り」と年中行事』（仮称）として、

平成3年度に刊行されることになりました。

体裁は、全体で150ページ程度、内容的には「ふるさとの四季」(グラビア)、「町の祭り年中行事」(図説)、「ふるさと民族風土記」(本文)、「町民族行事一覧」(資料編)によって構成する予定であります。

平成3年7月の発刊をめざして、鋭意、編集作業を進めて参ります。この民族風土記は、町内の全家庭にお配りして、町の伝統文化を発展させるために、活用していただくことを考えています。

町民の皆様のご理解・ご支援を、よろしくお願いいたします。

## 春の足音が聞こえる

寒明けとは、一年中で最も寒い、寒の終わることをいいますが、暦のうえで立春、ここから春が始まり、それ以後は早春と呼ばれる季節となります。とはいえ、寒が明けたといっても、それはあくまで暦の上のことで、実際には、まだ寒さが消えやらず、残っている—余寒という言葉がぴったりの季節です。地域によっては雪が降り、水もはります。しかし、こ

## 早春

となく自然の気配に春めく感じがします。春の足音がどこからか聞こえてくる；早春の訪れです。

では、早春とは、暦の上でのただの感じだけのことなのでしょうか。

気象観測によりますと、日本各地の平均気温は、立春のころからわずかではあります。確実に登り坂に

向かいます。札幌も、東京も、鹿児島も、2月の前半にそれぞれ気温の上昇期に入ります。

専門家の話ですと、天気動きも、立春過ぎからは、冬とは趣が違ってくる。ことが多いとのこと。

しかし、早春の特徴は、一度暖かい日があったからといって、それ以後ずっと暖かさが続くのではなく、必ずまた大陸の寒気が押し寄せてくることです。

いったん暖かい日があっただけに、ぶり返すような寒さには、ほとほとやり切れないものを感じることがあります。

もう春が来たかな、それともまだ、冬の延長かな—判断つきかねるのは、この時期に限らず、季節の変わり目によくある特徴といえそうです。